

内視鏡外科手術の 腕をみがく 技術認定医をめざして

内視鏡外科手術が広まるなか、一定レベル以上の技術を備えること、さらに現場で技術指導できることが求められている。日本内視鏡外科学会の技術認定制度は、そうしたニーズをシステムとして下支えするものであるが、認定基準が指導者レベルに置かれており、2010年度の合格率は35%とかなりの難関となっている。

技術認定制度では未編集の手術ビデオの提出が義務づけられている。完璧な手術を行えば何ら問題はないが、手術の最初から最後まですべてを完璧に行うことはなかなか難しい。しかし、“完璧ではないが、手術をうまくまとめる”コツもある。

本特集では、“手術をうまくまとめる”ことを念頭に、臓器別に各術式において、注意すべきポイントは何か、どのような手技が推奨されるのか、避けるべき手技は何か、について、第一線の著者に示していただいた。

本特集が、実際の手術での指針として読者に役立てられ、さらに技術認定医の育成に寄与することを期待している。